

## HITACHI

アル

# <sup>日立産業用コンピュータ</sup> **HF-W6500**モデル45/40

セットアップガイド

# HITACHI

アル

# <sup>日立産業用コンピュータ</sup> **HF-W6500**モデル45/40

セットアップガイド

マニュアルはよく読み、保管してください。

・操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近なところに保管してください。

この製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制 並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、 必要な手続きをお取りください。 なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

2012年10月 (第1版) WIN-3-0089 (廃版)
2013年 1月 (第2版) WIN-3-0089-01 (廃版)
2013年 5月 (第3版) WIN-3-0089-02 (廃版)
2015年 4月 (第4版) WIN-3-0089-03

 このマニュアルの一部または全部を無断で転写したり複写したりすることは、 固くお断りいたします。
 このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。

All Rights Reserved, Copyright © 2012, 2015, Hitachi Industry & Control Solutions, Ltd.



が、それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作に当たって は、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。









このページは白紙です。

#### はじめに

このマニュアルは、日立産業用コンピュータHF-W6500モデル45/40のOSに関するセットアップ手順について記述したものであり、下記のプレインストールOSを対象としています。

- Windows® 7 Professional
- · Windows Server® 2008 R2 Standard

#### <マニュアルの構成>

- このマニュアルは、次のような構成となっています。
- 第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順
- 第2章 OSセットアップ後の基本設定
- 第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元
- 第4章 注意事項
- 付録A Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順(Windows®7の場合のみ)
- 付録B 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順(Windows Server® 2008 R2の場合のみ)

<マニュアルで使用する用語>

このマニュアルで使用する用語について、以下のとおり定義します。

- ・セットアップ:ソフトウェアがコンピュータで使用できるように環境を設定することです。
- ・インストール:ソフトウェアをDVD、CD、フロッピーディスクからコンピュータのハードディスク に組み込むことです。
- ・仮想マシン: Virtual PCやHyper-V<sup>TM</sup>により提供される仮想ハードウェア環境です。
- ・ゲストOS:仮想マシン上で動作するオペレーティングシステムです。
- ・ホストOS:仮想マシンを動作させる基盤のオペレーティングシステムです。

#### 通知

この装置は、障害の種類によって大切なファイルを消失することがあります。また、この装置の 障害だけでなく、使用中の停電、誤操作などによってファイルを消失することがあります。この ような状態になった場合には、ファイルの回復はできません。そのような事態に備えて日常業務 の中にファイルのセーブ作業を組み入れ、計画的にファイルのバックアップをお取りください。 <記憶容量の計算値についての注意>

- 2<sup>n</sup>計算値の場合(メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など)
   1KB(キロバイト)=1,024バイトの計算値です。
   1MB(メガバイト)=1,048,576バイトの計算値です。
   1GB(ギガバイト)=1,073,741,824バイトの計算値です。
   1TB(テラバイト)=1,099,511,627,776バイトの計算値です。
   10<sup>n</sup>計算値の場合(ディスク容量など)
  - 1KB (キロバイト) =1,000バイトの計算値です。
  - 1MB (メガバイト) =1,000<sup>2</sup>バイトの計算値です。
  - 1GB (ギガバイト) =1,000<sup>3</sup>バイトの計算値です。
  - 1TB (テラバイト) =1,000<sup>4</sup>バイトの計算値です。

<商標について>

- Microsoft<sup>®</sup>、Windows<sup>®</sup>、Windows Server<sup>®</sup>、Internet Explorer<sup>®</sup>、Hyper-V<sup>™</sup>は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・上記以外にこのマニュアルに記載されている他社製品名(ソフトウェア、ハードウェア)は、各社の登録商標、商標、または商品です。

▲ 安全にお取り扱いいただくために	-1
第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順 1	-1
1.1 Windows®7のセットアップ 1	-2
1.1.1 セットアップの準備 1	-2
1. 1. 2 Windows® 7 Professionalのセットアップ手順 1	-3
1. 2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ 1	-4
1. 2. 1 セットアップの準備 1	-4
1. 2. 2 Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順 1	-5
第2章 OSセットアップ後の基本設定 2	-1
2.1 Windows®7の基本設定	-2
2.1.1 基本設定手順の概要	-2
2.1.2 画面の設定	-3
2.1.3 自動更新の設定	-4
2.1.4 ネットワーク環境の設定 2	-6
2.1.5 ハードディスクの空き領域のフォーマット	-8
2. 2 Windows Server® 2008 R2の基本設定 2-1	11
2.2.1 基本設定手順の概要 2-1	11
第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元	-1
3.1 復元手順の概要	-1
3.2 事前の準備	-2
3.3 システムドライブの出荷状態への復元 3	-3
第4章 注意事項	1
4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について	1
4.2 オペレーティングシステム動作中のイベントログ記録について	-1
4.3 コマンドプロンプトに関する注意事項 4	2
4. 4 既定でスケジューリングされる機能について	3
4.5 セキュリティ強化機能に関する注意事項 4	-4
4.6 ファイル共有に関する注意事項 4-1	12
付録A Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順	
(Windows®7の場合のみ) A	-1

## 目次

付録B	仮想環境を構築する場合のセットアップ	戶順	
	(Windows Server® 2008 R2の場合のみ)		B-1

### 第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順

この章では、以下のセットアップ手順について説明します。

・HF-Wを購入して初めて電源を投入した場合のセットアップ手順

プレインストールOS	説明		
Windows® 7 Professional	「1.1 Windows®7のセットアップ」を参照して、セットアップを 行ってください。		
Windows Server® 2008 R2 Standard	「1.2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ」を参照して、セットアップを行ってください。		

1. 1 Windows®7のセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows®7 Professionalのセットアップ手順を示します。

- ・Windows®7 Professionalの基本項目を設定します。
- ・RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- ・所要時間は約15分です。
- 1. 1. 1 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前 にあらかじめ決めて(確認して)おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してくださ
	$\mathcal{W}_{o}$
ユーザー名	コンピュータの管理者アカウントのユーザー名
	後からコントロールパネルにて変更可能です。
パスワード	ユーザー名のパスワード
	後からコントロールパネルにて変更可能です。
コンピューター名	ネットワークでコンピュータを識別するための名称
	・ネットワーク内でコンピュータを識別するための名称です。ネット
	ワークで固有な名称にしてください。
	後からコントロールパネルにて変更可能です。

1. 1. 2 Windows® 7 Professionalのセットアップ手順

以下の手順でWindows®7 Professionalのセットアップを行ってください。

- コンピュータの電源を入れます。
   「サービスを開始しています。」のメッセージが表示されます。その後、自動的に再起 動を行います。
   再起動後しばらくすると、Windows® 7 Professionalのセットアップ画面が表示されます。
- ② ユーザー名の入力画面が表示されます。
   ・ユーザー名およびコンピューター名を入力して [次へ] ボタンをクリックします。
- パスワードの入力画面が表示されます。
  - ・ [パスワードを入力してください] および [パスワードをもう一度入力してください] にパスワードを入力します。
  - ・[パスワードのヒントを入力してください] にパスワードのヒントを入力します。
  - ・ [次へ] ボタンをクリックします。
- ④ ライセンス契約画面が表示されます。
  - ・表示内容を確認し、「ライセンス条項に同意します」チェックボックスをオンにしま す。
    - 「次へ」ボタンをクリックします。
- ⑤ Windowsを自動的に保護する設定画面が表示されます。
  - 「後で確認します」ボタンをクリックします。
- ⑥ 日付と時刻の設定画面が表示されます。
  - ・タイムゾーンおよび日付と時刻を設定します。
  - 「次へ」ボタンをクリックします。
- ⑦ セットアップが完了後、自動的にログオンします。

以上で、Windows®7 Professionalのセットアップは終了です。これ以降は「第2章 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

#### —— 留意事項 -

この装置では、より確実な障害解析を行うために、システムエラー(ブルースクリーン)発生時に 完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、システムの再起動後に有効にな ります。 1. 2 Windows Server® 2008 R2のセットアップ

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順を示します。

- ・Windows Server® 2008 R2 Standardの基本項目を設定します。
- ・RAS機能のセットアップは自動で行われます。
- ・所要時間は約15分です。
- 1.2.1 セットアップの準備

下記の項目は、セットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始する前 にあらかじめ決めて(確認して)おいてください。

項目	内容	
ライセンス証書	この装置本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。	
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 後からコントロールパネルにて変更可能です。	

#### ----- 留意事項 --------

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
- ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
- ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用しないこと。

1. 2. 2 Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ手順

以下の手順でWindows Server® 2008 R2 Standardのセットアップを行ってください。

- コンピュータの電源を入れます。
   「サービスを開始しています。」のメッセージが表示されます。その後、自動的に再起動を行います。
   再起動後しばらくすると、Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップ画面が表示されます。
- ② ライセンス契約画面が表示されます。
  - ・表示内容を確認し、「ライセンス条項に同意します」チェックボックスをオンにしま す。
  - ・ [開始] ボタンをクリックします。
- ③ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されます。
  - [OK] ボタンをクリックします。
- ④ パスワードの入力画面が表示されます。

```
[新しいパスワード] および [パスワードの確認入力] にパスワードを入力して
```

[Enter] キーを押下するか [→] をクリックします。

なお、設定するパスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- ・6文字以上であること。
- ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
- ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用しないこと。
- ⑤ パスワード変更完了画面が表示されますので、 [OK] ボタンをクリックします。 その後、自動的にログオンします。
- ⑥ ログオン後、初期構成タスク画面が表示されますので、画面右上の [×] ボタンをク リックして画面を終了し、次ページ以降のセットアップを続行します。
  - ・次回起動時にこの画面を表示しない場合は、「ログオン時にこのウィンドウを表示し ない」チェックボックスをオンにして画面右上の[×]ボタンをクリックして画面を 終了します。

以上で、Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップは終了です。これ以降は「第2章 OSセットアップ後の基本設定」に記載の手順に従い、OSの基本設定を実施してください。

#### - 留意事項 -

この装置では、より確実な障害解析を行うために、システムエラー(ブルースクリーン)発生時に 完全メモリダンプを収集するように設定しています。この設定は、システムの再起動後に有効にな ります。 このページは白紙です。

### 第2章 OSセットアップ後の基本設定

この章では、以下の設定手順について説明します。

・OSセットアップ後の基本設定手順

この手順は、OSのセットアップを実施した後に必要に応じて実施してください。

プレインストールOS	説明		
Windows® 7 Professional	「2.1 Windows®7の基本設定」を参照して、各設定を行ってくださ い。		
Windows Server® 2008 R2 Standard	「2.2 Windows Server® 2008 R2の基本設定」を参照して、各設定を 行ってください。		

#### 2. 1 Windows®7の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows®7 Professionalの基本設定手順を示します。 この手順は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセット アップを実施した後に必要に応じて実施してください。

#### 2.1.1 基本設定手順の概要

画面の設定	<ul> <li>「2.1.2 画面の設定」を参照してください。</li> <li>・画面の解像度を設定します。</li> <li>・所要時間は約3分です。</li> <li>詳細設定については、「日立産業用コンピュータ</li> <li>HF-W6500モデル45/40取扱説明書(マニュアル番号</li> <li>WIN-2-0064)」の「3.9 ビデオ表示画面の設定</li> <li>方法」を参照してください。</li> </ul>
自動更新の設定	「2.1.3 自動更新の設定」を参照してください。 ・所要時間は約5分です。
ネットワーク環境の設定	「2.1.4 ネットワーク環境の設定」を参照し てください。 ・所要時間は約10分です。
ハードディスクのフォーマット	<ul> <li>「2.1.5 ハードディスクの空き領域のフォーマット」を参照してください。</li> <li>・フォーマット時間は、フォーマットするパーティションサイズによって異なります。</li> </ul>

- 2.1.2 画面の設定
  - コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
  - ② デスクトップ上で右クリックしてポップアップメニューを表示し、[画面の解像度]を クリックします。
  - ③ 必要に応じて画面の解像度を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

● ● ● ● ● ディスプレイ → 画面の解像度	<ul> <li>□</li> <li>□</li> <li>■</li> <li>×</li> <li>4</li> <li>□&gt;</li> <li>□</li> <li>□</li> <li>■</li> <li>■</li></ul>
ディスプレイ表示の変更	
	検出(C) 認知(I)
ディスプレイ( <u>S</u> ): 1. 汎用非 PnP モニター → 解像度低: 1280 × 1024 →	詳細設定
テキストやその他の項目の大きさの変更 どのディスプレイ設定を選択しますか?	TTORES A.
	OK         キャンセル         適用( <u>(</u> ))

 ④ [ディスプレイ設定] 画面が表示されますので、この設定を保存する場合には [変更を 維持する] ボタンをクリックしてください。設定しない場合には [元に戻す] ボタンを クリックして再度設定してください。

ディスプレイ設定
このディスプレイ設定をそのままにしますか?
変更を維持する( <u>K</u> ) 元に戻す(R)
14 秒で前のディスプレイ設定に戻ります。

2.1.3 自動更新の設定

不具合修正モジュールの自動更新機能は、マイクロソフト社のWebサイトに不具合修正モ ジュールが公開された場合、それを自動でダウンロードおよびインストールする機能です。

ただし、この機能が動作することによって実行中のアプリケーションに影響を与えることが あります。また、自動更新した修正モジュールが実行中のプログラムに影響を与える恐れもあ ります。したがって、この機能は"**無効**"にしてください。

以下に自動更新機能を無効にするための設定手順を示します。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理 者アカウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面が表示されますので、[システムとセキュリティ] をク リックします。
- ④ 続いてWindows Updateにある [自動更新の有効化または無効化] をクリックします。



⑤ 更新プログラムをインストールする方法を選択する画面が表示されますので、「更新プログラムを確認しない(推奨されません)」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

G ●      Windows Update      設定の変更	▼ 5 コントロール パネルの検索 👂
更新プログラムをインストールする方法を選択します コンピューターをインターネットに接続している場合は、重 認したり、インストールしたりすることができます。新しい ンピューターをシャットダウンする前にその更新プログラム 自動更新の利点 重要な更新プログラムを確認しない(推奨されません)	植要な更新プログラムを Windows で自動的に確 い更新プログラムが利用可能になったときは、コ ムをインストールすることもできます。
新しい更新プログラムのインストール(N): 毎日 推奨される更新プログラム ■ 推奨される更新プログラムについても重要な更新プ 更新プログラムをインストールできるユーザー 図 すべてのユーザーにこのコンピューターへの更新プ 注意: 他の更新プログラムを確認するときに、最初に Windo あります。オンラインのプライバシーに関する声明をお読み	▼ 時刻(A) 3:00 ▼ プログラムと同様に通知する(B) プログラムのインストールを許可する(U) ows Update 自体が自動的に更新されることが b<<ださい。
	● OK     キャンセル

⑥ [システムとセキュリティ] 画面の右上の [×] ボタンをクリックします。

2.1.4 ネットワーク環境の設定

ローカルエリアネットワークの設定は、デフォルトではDHCPを使用する設定(「IPアドレ スを自動的に取得する」)になっています。DHCPを使用しないでIPアドレスを設定する場合 には、以下の手順で設定してください。

なお、ここで説明するのはインターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)を使用する 場合の手順です。インターネットプロトコルバージョン6(TCP/IPv6)を使用する場合は、手 順⑧で「インターネットプロトコルバージョン6(TCP/IPv6)」を選択して設定してくださ い。

- コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [**スタート**] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
- ③ ネットワークとインターネットにある [ネットワークの状態とタスクの表示] をクリッ クします。
- ④ ネットワークと共有センターが表示されますので、左の項目から [アダプターの設定の 変更] をクリックします。
- ⑤ [**ネットワーク接続**] 画面が表示されます。
- ⑥ **[ローカルエリア接続] アイコン**をダブルクリックします。
- ⑦ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示される場合は、[はい] ボタンをクリックしま す。

#### - 留意事項 -

[**ローカルエリアの接続**] アイコンが複数ある場合には、以下の手順でアイコンとイーサアダプタのポートを対応付けてください。

- ・ [**ローカルエリア接続**] アイコンを右クリックしてポップアップメニューを表示し、 [プロパ ティ] をクリックします。
- ・ [構成] ボタンをクリックし、表示された画面の [リンク速度] タブをクリックします。
- ・ [アダプターの識別] ボタンをクリックし、 [アダプターの識別] 画面の [開始] ボタンをク リックします。
- ・選択した [**ローカルエリアの接続**] アイコンに対応したイーサアダプタのポートのLEDが点滅し ます。

- ⑧ [ローカルエリア接続のプロパティ]画面が表示されます。
  - ・「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択して、[プロパ ティ]ボタンをクリックします。

📱 ローカル エリア接続のプロパティ 🗾 💌	
ネットワーク 共有	
接続の方法:	
Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection	
- 構成(C) 構成(C)	
<ul> <li>Microsoft ネットワーク用クライアント</li> <li>② QoS パケット スケジューラ</li> <li>② Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有</li> <li>③ インターネット プロトコル パージョン 6 (TCP/IPv6)</li> <li>③ インターネット プロトコル パージョン 4 (TCP/IPv4)</li> <li>③ ▲ インターネット プロトコル パージョン 4 (TCP/IPv4)</li> <li>③ ▲ Link-Layer Topology Discovery Mapper I/O Driver</li> <li>☑ ▲ Link-Layer Topology Discovery Responder</li> </ul>	
インストール(N)  ドリト  アロパティ(R)  説明  伝送制御ブロトコル/インターネット プロトコル。相互接続されたさまざまな ネットワーク間の通信を提供する、既定のワイド エリア ネットワーク プロトコ ルです。	

- ③ [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)のプロパティ]画面が表示されます。
  - 「次のIPアドレスを使う」を選択して、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルト ゲートウェイを入力します。
  - [OK] ボタンをクリックします。

インターネット プロトコル バージョン 4 (1	TCP/IPv4)のプロパティ 🛛 💽		
全般			
ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することがで きます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせ てください。			
◎ IP アドレスを自動的に取得する( <u>0</u> )			
○ 次の IP アドレスを使う(S):			
IP アドレス(1):	10 . 10 . 10 . 10		
サブネット マスク(山):	255 . 255 . 0 . 0		
デフォルト ゲートウェイ( <u>D</u> ):	10 . 10 . 10 . 1		
● DNS サーバーのアドレスを自動的に取得	<ul> <li>DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)</li> </ul>		
<ul> <li>次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):</li> </ul>			
優先 DNS サーバー( <u>P</u> ):			
代替 DNS サーバー( <u>A</u> ):	· · ·		
🗐 終了時に設定を検証する(L)			
	OK キャンセル		

- ⑩ 開いている画面を閉じます。
  - ・ [ローカルエリア接続のプロパティ] 画面の [閉じる] ボタンをクリックします。
  - [ネットワーク接続] 画面右上の [×] ボタンをクリックします。

- 2.1.5 ハードディスクの空き領域のフォーマット
  - コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
  - ② [**スタート**] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
  - ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、管理ツールの [ハードディスク パーティ ションの作成とフォーマット] をクリックします。
  - ④ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示される場合は、[はい] ボタンをクリックしま す。
  - ⑤ [ディスクの管理] 画面が表示されますので、「未割り当て」と表示されている部分で マウスを右クリックし、表示されたメニューから[新しいシンプルボリューム] をク リックします。

🔚 ディスクの管理							×
ファイル( <u>E</u> ) 操作(	<u>(A</u> ) 表示(⊻)	へルプ( <u>H</u> )					
(	🖩 🖸 🗙 🖻	🖻 🔍 😼					
ボリューム	レイアウト	種類	ファイル …	状態	容量	空き領域	空
(C:)	シンプル	ベーシ	NTFS	正常 (ブ.	80.00 GB	70.78 GB	88
●システムで予約	・ シンプル	ベーシ	NTFS	正常 (シ.	100 MB	72 MB	71
•							F.
ベーシック	システムでう	(C:)					
149.05 GB	100 MB NTI	80.00 GB N	TFS	68	3.95 GB		
オンライン	正常 (システ	正常 (ブート	,ページ ファイ	ル,ク 未	割り当て		Ξ
CD-ROM 0							
DVD (D:)							
メディアなし							
· · · · ·						-	
■未割り当て ■ブ	ライマリ パーテ	イション					

⑥ 新しいシンプルボリュームウィザードが起動されますので [次へ] ボタンをクリックします。



⑦ ボリュームのサイズを指定する画面が表示されますので、任意のボリュームサイズを指定して[次へ]ボタンをクリックします。

新しいシンプル ボリューム ウィザード	×					
<b>ボリューム サイズの指定</b> 最小サイズと最大サイズの間でポリュームのサイズを選択してください。						
最大ディスク領域 (MB):	70598					
最小ディスク領域 (MB):	8					
シンブル ポリューム サイズ (MB)(S):						
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル					

 ⑧ ドライブ文字またはパスの割り当てをする画面が表示されますので、「次のドライブ文 字を割り当てる」を選択してドライブ文字を割り当て(変更する必要がない場合は、デ フォルトのままで可) [次へ] ボタンをクリックします。

新しいシンプル ボリューム ウィザード
<b>ドライブ文字またはパスの割り当て</b> アクセスを簡単にするために、ドライブ文字またはドライブ パスをパーティションに割り当てることができま す。
<ul> <li>● <u>(太のドライブ文字を書)り当てる(A)</u></li> <li>● 次の空の NTFS フォルダーにマウントする(M):</li> <li>● ドライブ文字またはドライブ パスを書り当てなし(Q)</li> </ul>
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

 ⑨ パーティションのフォーマットを設定する画面が表示されますので、「このボリューム を次の設定でフォーマットする」を選択し、「ファイルシステム」を「NTFS」として [次へ] ボタンをクリックします。

・ 新しいまた/プロ ボロュニル ウノザード					
	<u>~</u>				
パーティジョンのフォーマット このパーティションにデータを格納するには、最初	ルパーティションをフォーマットする必要があります。				
このボリュームをフォーマットするかどうかを選択 ください。	してください。フォーマットする場合は、使用する設定を選択して				
○ このボリュームをフォーマットしない(D)					
◎ このボリュームを次の設定でフォーマット	<u>42(0)</u>				
ファイル システム(E):	NTFS -				
アロケーション ユニット サイズ( <u>A</u> ):	既定值				
ボリューム ラベル(⊻):	ボリューム				
📝 クイック フォーマットする(P)					
ファイルとフォルダーの圧縮を有効にする(E)					
	< 戻る( <u>B</u> ) 次へ(N) > キャンセル				

- ① [新しいシンプルボリュームウィザードの完了] 画面が表示されますので [完了] ボタンをクリックします。
  - ・ディスクのフォーマットが始まります。

新しいシンプル ボリューム ウィ	<b>ゲード</b>	×
	新しいシンブル ポリューム ウィザードの完了	
	新しいシンプル ポリューム ウィザードは正常に完了しました。 次の設定を選択しました:	
	★1カームの種類シングルポリューム 着切されたマスクライスクローム あり、ームのサイズ、70538 MB ドショインダーオンパンズ 50588 MB ドショインダーオンパンズ 50 アンイルシステム、NTFS アロケーション、1 ついトサイズ・野会(街・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	ログ 22 ユージ 7 4 ADE 12 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
	〈 戻る(日) 元 7 キャン1	211

 パーティションのフォーマットが完了すると作成したパーティションに「正常」と表示 されます。

🚽 ディスクの管理								×
ファイル( <u>E</u> ) 操作(	<u>A</u> ) 表示(⊻)	ヘルプ(圧)						
	i 🕑 💕 💐	l						
ボリューム	レイアウト	種類	ファイル	状態		容量	空き領域	空
👄 (C:)	シンプル	ペーシ	NTFS	正常 (	ブ	80.00 GB	70.78 GB	88
□ システムで予約	・ シンプル	ベーシ	NTFS	正常(	<u>ک</u>	100 MB	72 MB	71
□■ボリューム (E:)	シンプル	ベーシ	NTFS	正常(	プ	68.94 GB	68.85 GB	1(
•								•
🔤 ディスク 0					_			
ベーシック	システムでう	(C:)			ボリニ	1—Д (E:)		
149.05 GB	100 MB NTI エー (2 フー	80.00 GB N	TFS		68.94	GBNTFS		
12512	止吊 (システ	正常 (ノート	、ペーシ ファイ	10,0	止吊	(721 49 //	-ティンヨン,	Ξ
CD-ROM 0 DVD (D:)								4
メディアなし								
								-
■ 未割り当て ■ プライマリ パーティション								

② [ディスクの管理] 画面右上の [×] ボタンをクリックし、画面を閉じます。

#### 2. 2 Windows Server® 2008 R2の基本設定

この節では、プレインストールされたWindows Server® 2008 R2 Standardの基本設定手順を示します。

この手順は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」を参照してOSのセット アップを実施した後に必要に応じて実施してください。

2.2.1 基本設定手順の概要



このページは白紙です。

#### 第3章 リカバリDVDによる出荷状態への復元

この章では、以下の手順について説明します。

・構築してあるシステムを破棄してシステムドライブを出荷時の状態へ復元する手順

#### —— 留意事項 -

この章の手順を行うには、リカバリDVDが必要となります。リカバリDVDは、リカバリDVD付きのHF-Wをご購入された場合にのみHF-Wに同梱されます。

#### 3.1 復元手順の概要

この節では、現在構築してあるシステムを破棄して出荷時の状態へ復元する手順の概要を説明しま す。リカバリDVDを使用してシステムドライブ(ドライブベイ1に搭載されているドライブ)の内容 を出荷時の状態に復元した後は、「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の 手順に従ってOSのセットアップを実施してください。

以下に手順の概略フローを示します。

事前の準備	<ul> <li>「3.2 事前の準備」を参照してください。</li> <li>・作業を開始する前に準備するものと決めて(確認して)おかなければならない項目です。</li> </ul>
出荷状態への復元	<ul> <li>「3.3 システムドライブの出荷状態への復元」 を参照してください。</li> <li>・システムドライブの内容を出荷時の状態に復元します。</li> <li>・所要時間はリカバリDVDの枚数によって異なります。</li> <li>リカバリDVDが1枚組の場合:約20分 リカバリDVDが2枚組の場合:約30分</li> </ul>
OSのセットアップ	「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ 手順」を参照してください。

#### — 留意事項 —

Aモデル(SATA-HDDモデル)において、ドライブベイ2にドライブが搭載された状態でリカバリ DVDを使用して復元作業を行った場合、DVDドライブのドライブ文字が出荷時と異なることがあ ります。

このような場合、必要に応じてセットアップ終了後にドライブ文字の変更を行ってください。

#### 通知

リカバリDVDは、出荷時のハードウェア構成で作成したイメージファイルを保存したDVDで す。そのため、ハードウェア構成が出荷時と異なる場合、復元作業を行ってもオペレーティング システムが正常に起動しない可能性があります。リカバリDVDを使用した復元は、外部記憶装置 をすべて取り外し、出荷時のハードウェア構成で行ってください。 また、リカバリDVDを使用した場合には<u>システムドライブのすべてのデータが消去されます</u>の で、必要に応じて事前にバックアップを行ってください。

#### 3.2 事前の準備

下記は、作業開始前にあらかじめ準備しておかなければならないソフトウェアです。リカバリ DVD付きのHF-Wをご購入された場合はHF-Wに同梱されていますので、作業を開始する前に必ず準 備してください。

HF-W専用リカバリ	HITACHI <u>HJ-654x****</u> Product Recovery DVD			
DVD	(下線部にはご購入頂いたHF-W6500モデル45/40の型式が記載されています。			
	ただし、先頭から7番目の文字は"x"となります。)			

3.3 システムドライブの出荷状態への復元

以下の手順に従い、リカバリDVDを使用してHF-W6500モデル45/40のシステムドライブを出荷時の 状態に復元します。

- ① HF-Wの電源を入れ、リカバリDVD「HITACHI <u>HJ-654x\*\*\*\*\*</u> Product Recovery DVD」をDVDド ライブにセットします(下線部は、ご購入頂いたHF-W6500モデル45/40の型式が記載されるた め、モデルごとに<u>\*</u>の内容が異なります。以降の手順において同様の記載がされている部分 に関しては、ご購入のHF-W6500モデル45/40の型式に読み替えてください。ただし、先頭から 7番目の文字は"x"となります。)。
- ② リカバリDVDから起動すると、以下の認証メッセージが表示されます。

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、認証が中断されます。 電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

System recovery process is canceled.

(Yes[y]/No[n]):n

③ [y] キーを押した場合は、ドライブの復元開始の確認メッセージが表示されます。

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、認証が中断されます。 電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

(Yes[y]/No[n]):n

System recovery process is canceled.

④ [y] キーを押した場合は、ブートパーティション容量変更確認メッセージが表示されます。

[n] キーを押した場合は、出荷時と同じ容量(NNN MB)でブートパーティションを復元する確認メッセージが表示されます。

(Yes[y]/No[n]):n Set the boot partition size to NNN MB. Continue? (Yes[y]/No[n]):

[y] キーを押すとドライブの復元が開始され、進捗状況が表示されます(⑥へ)。

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、ブートパーティション容量変更が 中断されます。電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

(Yes[y]/No[n]):n System recovery process is canceled. ⑤ ブートパーティション容量変更確認メッセージ(④)で[y] キーを押した場合は、ブートパーティション容量入力メッセージが表示されます。

Do you change the size of boot partition? In case of "No", it is set to the default size (NNN MB). (Yes[y]/No[n]):y Input the size of boot partition by the megabyte[MB] and press ENTER. partition size(MIN-MAX[MB]):

入力可能な範囲の最小値(MIN)と最大値(MAX)を表示しますので、ブートパーティショ ン容量をMB単位(1MB=1,048,576バイト)で入力し、[Enter] キーを押します。 ブートパーティション容量を入力すると、入力確認メッセージが表示されます。

```
partition size(MIN-MAX[MB]):20000
Set the boot partition size to 20000 MB.
Continue?
(Yes[y]/No[n]):
```

[y] キーを押すとドライブの復元が開始され、進捗状況が表示されます(⑥へ)。

[n] キーを押した場合は、以下のメッセージが表示され、ブートパーティション容量変更が 中断されます。電源スイッチを押し、HF-Wの電源を切ってください。

#### (Yes[y]/No[n]):n

System recovery process is canceled.

入力可能な範囲外の数値を入力した場合、以下のメッセージが表示されますので、数値を再入 力します。

```
Input error.
```

Input the size of boot partition by the megabyte[MB] and press ENTER. partition size(MIN-MAX[MB]):

⑥ [y] キーを押した場合は、ドライブの復元が開始され、進捗状況が表示されます。

HJ-654x\*\*\*\* system recovery START. xx%
⑦ リカバリDVDが複数枚組の場合、リカバリDVD1枚目のドライブの復元が完了すると、以下の メッセージが表示されます。1枚目をDVDドライブから取り出し、次のリカバリDVDをDVDド ライブにセットします。

HJ-654x\*\*\*\*\* system recovery START. 100% COMPLETED. Remove "HITACHI HJ-654x\*\*\*\* Product Recovery DVD Disc <u>X1/Y1</u>" and Insert "Disc <u>X2/Y2</u>".

下線部 "X1/Y1"には現在セットされているリカバリDVDのディスク番号が、下線部 "X2/Y2"には次にセットするリカバリDVDのディスク番号が表示されます。

⑧ [Enter] キーを押すとドライブの復元が再開され、再び進捗状況が表示されます。

HJ-654x\*\*\*\*\* system recovery CONTINUE. xx%

- ⑨ 上記の⑦、⑧をリカバリDVDの枚数分繰り返します。
- リカバリDVDによるドライブの復元がすべて完了すると、以下のメッセージが表示されます。
   リカバリDVDをDVDドライブから取り出します。

#### 100% COMPLETED.

Remove "HITACHI HJ-654x\*\*\*\* Product Recovery DVD" from the DVD drive and restart HJ-654x\*\*\*\*.

電源スイッチを押してHF-Wの電源を切り、再びHF-Wの電源スイッチを押して電源を入れます。

リカバリDVDによって、HF-W6500モデル45/40のシステムドライブは出荷時の状態に復元されました。これ以降は「第1章 初めて電源を投入した際のセットアップ手順」に記載の手順に従い、OS のセットアップを実施してください。

## 第4章 注意事項

## 4. 1 セットアップ中のイベントログ記録について

この製品ではオペレーティングシステムのセットアップ中に以下のイベントログが記録されることがありますが、システムの動作に影響はありません。

● Windows® 7の場合 ソース:Service Control Manager イベントID:7022 種類:エラー

> ソース: Microsoft-Windows-Search イベントID: 1008 種類:警告

ソース: elqexpressまたはelrexpress イベントID: 27 種類:警告

 Windows Server® 2008 R2の場合 ソース:Winlogon イベントID:6004
 種類:警告

> ソース: elqexpressまたはelrexpress イベントID: 27 種類:警告

## 4.2 オペレーティングシステム動作中のイベントログ記録について

この製品ではオペレーティングシステムの動作中に以下のイベントログが記録されることがありま すが、システムの動作に影響はありません。

● Windows®7の場合

ソース: Microsoft-Windows-WMI イベントID:10 種類:エラー

ソース: Microsoft-Windows-User Profiles Service イベントID: 1530 種類:警告 ソース: Microsoft-Windows-Search イベントID: 3036 種類:警告 ソース: Microsoft-Windows-Time-Service

イベントID:134 または 36 種類:警告

Windows Server® 2008 R2の場合
 ソース: Microsoft-Windows-WMI
 イベントID: 10
 種類:エラー

ソース: Microsoft-Windows-User Profiles Service イベントID: 1530 種類:警告

ソース: Microsoft-Windows-Time-Service イベントID:134 または 36 種類:警告

また、USBデバイスの接続または切り離しを行った際、またはストレージデバイスを増設した際の 初回起動時に以下のイベントログが記録されることがあります。これについても、オペレーティング システムの仕様により記録されるものであり、システムの動作に影響はありません。

ソース:Disk イベントID:11 種類:エラー

4.3 コマンドプロンプトに関する注意事項

オペレーティングシステムを再起動することなくコマンドプロンプトを複数回(約数百回)起動す ると、デスクトップ画面の描画が正常に行えなくなる現象が発生します。これは、コマンドプロンプ トを起動するたびにエクスプローラ(プロセス名: explorer.exe)が描画リソースを消費するためで す。

コマンドプロンプトを頻繁に起動する場合(バッチファイルを繰り返し実行する場合など)は、定 期的にオペレーティングシステムを再起動するようにしてください。万が一、この現象が発生した場 合は、オペレーティングシステムを再起動してください。 4. 4 既定でスケジューリングされる機能について

Windows® 7やWindows Server® 2008 R2では、様々な機能が既定でスケジューリングされており、 定期的にバックグラウンドで実行されます。これらの機能の中で、Windows Defender(スパイウェア 対策機能)やディスクデフラグは、動作するとシステムに負荷が掛かり、業務を行うアプリケーショ ンの動作に影響を与える可能性があります。そのため、必要に応じて、業務を行うアプリケーション の稼動スケジュールと重ならないようにスケジュール時刻を変更することを推奨します。

- なお、スケジュールの初期設定は以下となっています。
- Windows Defender (Windows  $\mathbb{R}$  7 $\mathcal{O}$   $\mathcal{P}$ )
  - 頻度:毎日
  - おおよその時刻:2:00
- ディスクデフラグツール
  - 頻度: 毎週
  - •日:水曜日
  - ・時刻:1:00

- 4.5 セキュリティ強化機能に関する注意事項
  - (1) Windowsファイアウォールによるブロックの解除
     Windowsファイアウォールは既定で有効になっています。これによって、ネットワークを使用する プログラムのネットワーク接続がブロックされ、プログラムが動作しない場合があります。この場 合、以下の3つの方法でWindowsファイアウォールによるブロックを解除することができます。
    - (a) Windowsファイアウォールを無効にする
    - (b)対象のプログラムを例外として登録する
    - (c) 使用するポートを例外として登録する

以下に、各設定手順を示します(画面イメージはWindows®7ですが、Windows Server® 2008 R2も同様です)。

(a) Windowsファイアウォールを無効にする

以下の手順を実施することで、Windowsファイアウォールが無効になります。これによって、す べてのプログラムのネットワーク接続がブロックされなくなります。

- コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面から [システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
   ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
- ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
  - ・ [Windows ファイアウォールの有効化または無効化] をクリックします。
- ⑥ [設定のカスタマイズ] 画面が表示されます。
  - ・ [Windows ファイアウォールを無効にする] をチェックします。
  - [OK] ボタンをクリックします。



⑦ [Windows ファイアウォール] 画面を閉じます。

(b) 対象のプログラムを例外として登録する

以下の手順で対象のプログラムをWindowsファイアウォールの例外として登録することができま す。例外として登録されたプログラムはネットワーク接続をブロックされなくなります。

- コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [コントロールパネル] 画面から [システムとセキュリティ] をクリックします。
- ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
   ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
- ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
  - ・ [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する] をクリックします。
- ⑥ [許可されたプログラム] 画面が表示されます。
  - ・ [設定の変更] ボタンをクリックします。
  - ・ [別のプログラムの許可] ボタンをクリックします。
  - ※ [別のプログラムの許可] ボタンがクリックできない場合は、 [設定の変更] ボタンをク リックして [別のプログラムの許可] ボタンを有効にしてください。

G ● ▼      Windows ファイアウォール      許可されたプログラム	▼ 4 コントロール パネルの検索	Q	
Windows ファイアウォール経由の通信をプログラムに評 許可されたプログラムおよびポートを追加、変更、または プログラムに通信を許可する危険性の詳細	河します 規制体するには、[設定の変更] をクリックします。		
許可されたプログラムおよび機能(A):			
名前	ホーム/社内 (プライベート) パブリック 🔶		
□ BranchCache - コンテンツ取得 (HTTP を使用)			
□ BranchCache - ビア検出 (WSD を使用)			
□ BranchCache - ホスト型キャッシュ サーバー (			
□iSCSI サービス			
Media Center Extender			
□ Netlogon サービス			
□ Secure Socket トンネリング プロトコル			
SNMP Service			
Ш SNMP Irap			
	<b>፤羊細(<u>∟</u>)…</b> 削除( <u>M</u> )		
別のプログラムの許可( <u>R</u> )…			
	OK キャンセル		

- ⑦ [**プログラムの追加**] 画面が表示されます。
  - ・ブロックを解除したいプログラムを選択します。一覧に表示されていないプログラムは
     【参照】ボタンをクリックしてファイルを選択します。
    - ・ [追加] ボタンをクリックします。



- ⑧ [許可されたプログラム] 画面の [許可されたプログラムおよび機能] に選択したプログラムが登録されたことを確認して、 [OK] ボタンをクリックします。
- ⑨ [Windows ファイアウォール] 画面を閉じます。

また、Windowsファイアウォールの設定において [Windows ファイアウォールが新しいプログ ラムをブロックしたときに通知を受け取る]の設定が有効な場合、アプリケーションの起動時に 以下のダイアログボックスが表示され、例外に登録することができます。

●         ●         Windows ファイアウォール ト 設定のカスタマイズ         ●         コントロール パネルの検索         ●
各種類のネットワーク設定のカスタマイズ
使用する各種類のネットワークの場所に対するファイアウォール設定を変更できます。
ネットワークの場所に関する詳細
ホームまたは社内 (プライベート) ネットワークの場所の設定
● Windows ファイアウォールを有効にする
□許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての差信接続をブロックする
IVI Windows ファイアウォールが新しいプログラムをブロックしたときに通知を受け取る
😵 💿 Windows ファイアウォールを無効にする (推奨されません)
パプリック ネットワークの場所の設定
🥑 💿 Windows ファイアウォールを有効にする
許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての差信接続をプロックする
IV Windows ファイアウォールが新しいプログラムをプロックしたときに通知を受け取る
🔞 💿 Windows ファイアウォールを無効にする (推奨されません)
•

- 記動したアプリケーションのネットワーク接続がブロックされると以下のダイアログボック スが表示されます。
  - ・ [**アクセスを許可する] ボタン**をクリックします。

	×		
このブログラムの機能のいくつかが Windows ファイアウォールでブロックされてい ます			
すべてのパガリックネットワークとブライベート ネットワークで、Windows ファイアウォールにより recv の概能の(べつかが ブロックされています。 名前(仏) でご 発行元(ビ): 不明 パス(出): C¥recvexe			
recv にこれらのネットワーク上での通信を許可する:			
<u>プログラムにファイアウォールの経由を許可することの危険性の詳細</u>			

このプログラムが例外として登録されます。

- (c)使用するポートを例外として登録する
   以下の手順で使用するポートを例外として登録することができます。例外として登録したポート
   によるネットワーク接続はブロックされなくなります。
  - コンピュータの管理者でログオンしていない場合には、コンピュータの管理者でログオンします。
  - ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
  - ③ [コントロールパネル] 画面から [システムとセキュリティ] をクリックします。
  - ④ [システムとセキュリティ] 画面が表示されます。
     ・ [Windows ファイアウォール] をクリックします。
  - ⑤ [Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
    - [詳細設定] をクリックします。
  - ⑥ [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] 画面が表示されます。
    - ・[受信の規則]または[送信の規則]をクリックします。
    - ・ [操作] 枠内の [新しい規則] をクリックする。

※登録するポートの用途により[受信の規則]または[送信の規則]を選択してください。 以降の手順では[受信の規則]を選択した場合の手順を示します。

- ⑦ [新規の受信の規則ウィザード]の[規則の種類]画面が表示されます。
  - ・ [ポート] を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

- ● 新規の受信の規則ウイザー	۲
規則の種類	
作成するファイアウォールの規則の	檀類を選択してくたさい。
ステ <del>ップ:</del> <ul> <li>規則の種業類</li> </ul>	どの種類の規則を作成しますか?
<ul> <li>フロトコルおよびボート</li> <li>操作</li> <li>プロファイル</li> <li>名前</li> </ul>	<ul> <li>プログラム(P)</li> <li>プログラムの接続を制御する規則です。</li> <li>ボート(O)</li> </ul>
	ICF 32(は 00 F か F 00 接続を参加ゆ 9 6 7 使用)     ● <b>新定義(に):</b> BranchCache - コンテンツ取得 (HTTP を使用)     Windows エクスペリエンスのために接続を制御する規則です。 <b>クスタシム(C) カスタンム(C)</b>
	規則の種類の詳細を表示します
	< 戻る(B) <b>次へ(D)</b> キャンセル

- 8 **[新規の受信の規則ウィザード]**の**[プロトコルおよびポート] 画面**が表示されます。
  - ・プロトコルの種類を選択します。
  - ・ [すべてのローカルポート] または [特定のローカルポート] のどちらかを選択します。
  - ・ [特定のローカルポート] を選択した場合、ポート番号を入力します。
  - [次へ] ボタンをクリックします。

<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>			
プロトコルおよびボート この規則を適用するプロトコルとボートを指定してください。			
<ul> <li>ステップ:</li> <li>規則の種類</li> <li>プロトコルおよびポート</li> <li>操作</li> <li>プロファイル</li> <li>名前</li> </ul>	TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか? ● TCP(T) ● UDP(U) マイてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択して くだだい。 ● オイてのローカル ポート(A) ● 特定のローカル ポート(S): 例:80、443、5000-5010		
	<u>プロトコルとポートの詳細を表示します</u> < 戻る( <u>B</u> ) 次へ(N) > キャンセル		

- ⑨ **[新規の受信の規則ウィザード]**の**[操作]**画面が表示されます。
  - ・ [接続を許可する] を選択します。
  - 「次へ」ボタンをクリックします。

<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>					
操作					
規則で指定された条件を接続が満	規則で指定された条件を接続が満たす場合に、実行される操作を指定します。				
ステップ:					
<ul> <li>規則の種業員  </li> </ul>	接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか?				
プロトコルおよびポート	<ul> <li></li></ul>				
◎ 操作	<ul> <li></li></ul>				
● プロファイル					
● 名前					
	カスタマイズ(2)				
	◎ 接続をブロックする(K)				
	操作の詳細を表示します				
		_			
	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセノ	L			

- ① [新規の受信の規則ウィザード]の[プロファイル] 画面が表示されます。
  - ・規則が適用されるプロファイルを指定します。
  - 「次へ」ボタンをクリックします。

<ul> <li>         新規の受信の規則ウイザード         X     </li> </ul>				
<b>プロファイル</b> この規則が適用されるプロファイル・	プロファイル この規則が通用されるプロファイルを指定してください。			
<ul> <li>ステップ:</li> <li>規則の種類</li> <li>プロトコルおびポート</li> <li>操作:</li> <li>プロファイル</li> <li>名前</li> </ul>	この規則はいつ適用しますか? 「ドメイン(D) コンピューターがその企業ドメインに接続しているときに適用されます。 「フライベートドP) コンピューターがプライベート ネットワークの場所に接続しているときに適用されます。 「パブリック(D) コンピューターがり(プリック ネットワークの場所に接続しているときに適用されます。			
	<u>プロファイルの詳細を表示します</u> < 戻る( <u>B</u> ) 次へ(N) > キャンセル			

- ① [新規の受信の規則ウィザード]の[名前]画面が表示されます。
  - [名前] ボックスにポートの名前を入力します。
  - ・ [完了] ボタンをクリックします。

● 新規の受信の規則ウイザー	۵	<
名前 この規則の名前と説明を指定してく	(ださい <sub>)</sub>	
<ul> <li>ステッナ:</li> <li>規則の種類</li> <li>プロトコルおよびポート</li> <li>操作</li> <li>プロファイル</li> <li>名前</li> </ul>	名前( <u>1)</u> ) 説明 (オプションX <u>D</u> ):	
	(夏3( <u>B</u> ) 売7(F) キャンセル	

- ② [セキュリティが強化された Windows ファイアウォール] 画面の [受信の規則] に作成した規則が登録されたことを確認して画面を閉じます。
- 13 [Windows ファイアウォール] 画面を閉じます。

(2) Internet Explorer®のポップアップを無効にする

Internet Explorer®には、Internet Explorer®のポップアップウィンドウをブロックする機能が備わっています。

これによって、お使いのWebアプリケーションがポップアップウィンドウを使用する場合、ポップ アップがブロックされ、正常に動作しないことがあります。以下の手順でポップアップブロック機 能を無効にすることができます。

- ① Internet Explorer®を起動します。
- ② [ツール] [ポップアップ ブロック] [ポップアップ ブロックを無効にする] をクリックします。



## 4.6 ファイル共有に関する注意事項

Windows®7またはWindows Server®2008 R2をファイルサーバとしたネットワーク経由によるファ イル共有を利用中に、STOP 0x7eが発生する場合があります。ファイル共有を利用する際には、詳細 内容および回避策につきまして、マイクロソフト社の下記URLを参照してください。

Operating system intermittently crashes with a "0x0000007E" Stop error message on a computer that is running Windows 7 or Windows Server 2008 R2

http://support.microsoft.com/kb/2528614

## 付録A Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順 (Windows® 7の場合のみ)

ここでは、Windows XP Modeを使用する場合のセットアップ手順について説明します。このセットアップ 手順は、以下の留意事項をよく読み、Windows XP Modeを使用する場合にだけ実施してください。

## —— 留意事項 -

 この製品のWindows® 7搭載モデルは、Windows XP Mode(ライセンス認証済みのWindows® XP をインストールした仮想環境)を格納しています。

Windows XP Modeは、Windows® 7で実行できないWindows® XP向けのアプリケーションを動作 させるための機能であり、アプリケーションの互換性を確保するための最終手段として位置付け られています。そのため、アプリケーションの互換性の問題を解決できない場合にのみ使用して ください。

- ・Windows XP Modeは、すべてのWindows® XP向けアプリケーションの動作を保証するものではありません。
- ・Windows XP Modeを使用する場合、実装するメインメモリは下記の容量を満たしてください。
   オペレーティングシステムが32ビット版の場合:2GB以上
   オペレーティングシステムが64ビット版の場合:3GB以上

<Windows XP Modeを使用しない場合>

Windows XP Modeのセットアップに使用するファイルは、ゲストOS用の仮想ハードディスクファイル を含んでいるため、約2GBのディスク容量を占有します。そのため、Windows XP Modeを使用しない場 合は、以下の手順に従い格納ディレクトリを削除することをお勧めします。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- コマンドプロンプトを起動します。
  - ・ [スタート] ボタンをクリックし、 [すべてのプログラム] をポイントします。
  - [**アクセサリ**] をクリックします。
  - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をク リックします。

(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマン ドプロンプト]をクリックします。)

・ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、 [はい] ボタンをクリックします。

③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。

rmdir /s C:¥HITACHI¥XP\_Mode

(1) セットアップ手順の概要

以下に、Windows XP Mode (ゲストOS: Microsoft® Windows® XP Professional) のセットアップ手 順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



なお、Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCをコンピュータから削除する手順については、 「(6) Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのアンインストール」を参照してください。

- 留意事項 -

- ・Windows XP Modeは、仮想マシン上でMicrosoft® Windows® XP Professional SP3を動作させるため、 Windows Virtual PCのインストールが必要になります。
- ・Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのインストールは、最終的にこの製品を使用する方が 行ってください。または、システムを構築する方がその代行として行ってください。

(2) Windows XP Modeのインストール

以下の手順でWindows XP Modeをインストールしてください。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② インストールプログラムを起動するため、コマンドプロンプトを起動します。
  - ・ [スタート] ボタンをクリックし、 [すべてのプログラム] をポイントします。
  - [**アクセサリ**] をクリックします。
  - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] を クリックします。

(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コ マンドプロンプト]をクリックします。)

・ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、 [はい] ボタンをクリックします。



③ [コマンドプロンプト]画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。

## cd C:¥HITACHI¥XP\_Mode

④ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。インストールを開 始します。

## WXPMode\_install.bat

⑤ インストールが完了すると、完了したことを示す以下のメッセージが表示されます。
 Installation completed.

以上で、インストールは完了です。コマンドプロンプトを終了してください。

(3) Windows Virtual PCのインストール

以下の手順でWindows Virtual PCをインストールしてください。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカ ウントでログオンします。
- ② セットアッププログラムを起動します。
  - [スタート] ボタンをクリックし、 [すべてのプログラム] をポイントします。
  - ・ [アクセサリ] [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
  - ・「名前」ボックスに以下を入力して [OK] ボタンをクリックします。

C:¥HITACHI¥XP\_Mode¥Virtual-PC

<b>ヨ</b> ファイ	ル名を指定して実行
	実行するプログラム名、または開くフォルダーやドキュメ ント名、インターネット リソース名を入力してください。
名前(0):	C:¥HITACHI¥XP_Mode¥Virtual-PC
	OK キャンセル 参照(B)

 ・エクスプローラ画面が表示されますので、格納されているセットアッププログラムをダブル クリックします。なお、セットアッププログラムは、オペレーティングシステムのビット数 の違いによって異なります。

オペレーティングシステムが32ビット版の場合:Windows6.1-KB958559-x86.msu オペレーティングシステムが64ビット版の場合:Windows6.1-KB958559-x64.msu

③ [Windows Update スタンドアロン インストーラー] 画面が表示されますので、 [はい] ボ タンをクリックします。

Windows Update スタンドアロン インストーラー
次の Windows ソフトウェア更新プログラムをインストールしますか? Windows 用更新プログラム (KB958559)
(まい(Y) いいえ( <u>N</u> )

④ **[更新プログラムのダウンロードとインストール] 画面**が表示されますので、ライセンス条項 をよく読んでから **[同意します] ボタン**をクリックします。

受新プログラムのダウンロードとインストール
ライセンス条項をお読みください(1 / 1)。 更新プログラムをインストールする前に、ライセンス条項に同意する必要があります。
Windows 用更新プログラム (KB958559)
マイクロソフト ソフトウェアジョ加ライセンス条項 WINDOWS VIRTUAL PC FOR MINDOWS 7 Microsoft Corporation またはお客様の所在地に応じては、その間連会社(以下、総称して「マイクロソフト」といいま す)は、お客様に本追加ソフトウェアの使用を許諾するものとします。お客様が Microsoft Windows 7 Home Basic 、Windows 7 Home Premium、Windows 7 Protessional、Windows 7 Enterprise または、Windows 7 Ultimate ( 本追加ソフトウェアを使用できます。ホンフトウェアのjーセンスを取得していないます。のライセンスを取得している場合は、本 道加ソフトウェアを使用できます。ホンフトウェアの自力なライセンスを取得していない場合、お客様は本ソフトウェアを使用する ことはできませ。いあ客様は、ホジフトウェアの自力なライセンスを取得していない場合、お客様は本ソフトウェアを使用する ことはできます。ホンフトウェアの自力なライセンスを取得しています。本追加ソフトウェアを使用 できます。 以下のライセンス条項は、本追加ソフトウェアの追加使用条件について説明しています。本追加ソフトウェアの使用に (は、本追加ソフトウェア ライセンス条項が適用されます。 本追加ソフトウェアを使用することにより、お客様は本追加ライセンス条項に同意されたものとします。本追加ライセン ・
<u>印刷可能バージョン</u> 同意しません( <u>D</u> )  同意します( <u>A</u> )  キャンセル

⑤ インストール完了後、再起動を促す画面が表示されますので、[今すぐ再起動]ボタンをク リックして再起動してください。

🛃 更新プロ	グラムのダウンロードとインストール		<b>X</b>
	インストールの完了 更新プログラムを有効にするには、コンピューターを再起動してください。		
		今ず、再起動	閉じる

(4) Windows XP Modeのセットアップの準備

下記の項目は、Windows XP Modeのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業 を開始する前にあらかじめ決めて(確認して)おいてください。

項目	内容
XPMUserのパスワード	XPMUser (コンピュータの管理者アカウント)のパスワード 設定後に変更できます。

(5) Windows XP Mode  $\mathcal{O}$  セットアップ

以下の手順でWindows XP Modeをセットアップしてください。

- [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントします。
- ② [Windows Virtual PC] [Windows XP Mode] をクリックします。

👩 Windows Media Center	
🚺 Windows Media Player	ピクチャ
I Windows Update	Sa - Stark
🛹 XPS ビューアー	21-290
📑 デスクトップ ガジェット	コンピューター
🕢 既定のプログラム	
🤰 Windows Virtual PC	コントロール パネル
Windows Virtual PC	
Windows XP Mode	テハイスとノリンター
<u></u>	既定のプログラム
🌗 ゲーム	
🌗 スタートアップ	ヘルプとサポート
🌗 メンテナンス	
↓ 前に戻る	
プログラムとファイルの検索	シャットダウン 🕨
(2) (2) (2)	

- ③ Windows XP Mode 使用許諾契約書が表示されます。
  - ・使用許諾契約の内容をよく読んでから「ライセンス条項に同意する」チェックボックスをオンにして、[次へ]ボタンをクリックします。

Windows XP Mode 使用	許諾契約書		
使用許諾契約書を確認し する必要があります。	て、選択を行います。セッ	トアップを続行するには、使用許諾募	認約書に同意
マイクロソフト ソフト	ウェア ライセンス条項		<b>A</b>
MICROSOFT WINDOW	S XP MODE		
(WINDOWS 7 PROFES	SIONAL, ENTERPRISE お	よび ULTIMATE EDITION ユーザー	のた
のの1仮想ハート ティス? PACK 3)	フィメージ形式による WI	NDOWS XP PROFESSIONAL SERV	ICE
重要 – 以下のライセン	ス契約を注意してお読みく	ださい。このマイクロソフト ソフト	י דל
▼ ライセンス条項に同意	する (A)		
印刷可能な形式			

- ④ インストール フォルダーと資格情報画面が表示されます。
  - ・ [パスワード]および [パスワードの確認入力] にXPMUserのパスワードを入力します。
  - 「次へ」ボタンをクリックします。

インストール フォルダーと資格	青報
インストール フォルダー	
C:¥Users¥Hitachi¥AppDat	ta¥Local¥Microsoft¥Windows Virtual PC¥仮想マ 参照( <u>W</u> )
資格情報の作成	
ユ <mark>ー</mark> ザー名:	XPMUser
パスワード(P):	
パスワードの確認入力( <u>0</u> ):	
☑ 資格情報を記憶する (推奨)	₹)( <u>R</u> )
Windows XP Mode の資格	<u>青報の詳細</u>

- ⑤ 自動更新の設定画面が表示されます。
  - ・「後で設定する」を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

コンピ:	ューターを保護します
<mark>自動更新</mark> よってフ	新を使用すると、コンピューターに対する最新のセキュリティ更新プログラムが Windows に 定期的に確認され、自動的にインストールされます。
١	◎ 自動更新をオンにして、コンピューターを保護する (推奨)( <u>出</u> )
8	<ul> <li>後で設定する(O)</li> <li>自動更新をオンにしていない場合、コンピューターがウイルスおよびその他のセキュリティの脅威にさらされる可能性が高くなります。</li> <li>自動更新の詳細</li> </ul>
	ユーザーの特定またはユーザーへの連絡に使用される情報は収集されません
	Windows Update のプライバシーに関する声明を表示します

- ⑥ ドライブの共有をセットアップする画面が表示されます。
  - ・ [セットアップの開始] ボタンをクリックします。



⑦ Windows XP Modeのセットアップを行っていることを示す画面が表示されます。



セットアップ終了後、仮想マシンを起動し、自動的にXPMUserでログオンします。

## - 留意事項 ·

Windows XP Modeセットアップ後の初回起動時において、Windows XP Modeのタイムゾーンが Windows®7のタイムゾーンと一致しない場合があります。この場合は、Windows XP Modeのタイ ムゾーンをWindows®7のタイムゾーンに一致するよう手動で設定を変更してください。 (6) Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCのアンインストール

Windows XP ModeおよびWindows Virtual PCをコンピュータから削除したい場合は、この節に示す 手順に従い、アンインストール作業を行ってください。

## —— 留意事項 —

動作しているアプリケーションプログラムがある場合は、すべて終了してからアンインストール作 業を行ってください。

(a) Windows XP Modeのアンインストール

以下の手順でWindows XP Modeをアンインストールしてください。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者ア カウントでログオンします。
- ② アンインストールプログラムを起動するため、コマンドプロンプトを起動します。
  - [スタート] ボタンをクリックし、 [すべてのプログラム] をポイントします。
  - [**アクセサリ**] をクリックします。
  - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をクリックします。

(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、

- [**コマンドプロンプト**]をクリックします。)
- ・ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、 [はい] ボタンをクリックしま す。



- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。 cd "C:¥HITACHI¥XP Mode¥Windows XP Mode"
- ④ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。
   WXPMode\_uninst.bat

- ⑤ アンインストールの最初に「Do you want to uninstall Windows XP Mode? (y/n):」とメッセージが表示されます。 アンインストールを行う場合は、"y"を入力した後、[Enter] キーを押してください。 アンインストールを行わない場合は、"n"を入力した後、[Enter] キーを押してください。 い。アンインストール処理を中断します。
- ⑥ アンインストールが完了すると、完了したことを示す以下のメッセージが表示されます。Uninstallation completed.

以上で、Windows XP Modeのアンインストールは完了です。コマンドプロンプトを終了後、 Windows Virtual PCのアンインストールを実施してください。 (b) Windows Virtual PCのアンインストール

以下の手順でWindows Virtual PCをアンインストールしてください。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者ア カウントでログオンします。
- ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
- ③ [プログラム] をクリックします。
- ④ [プログラムと機能] にある [インストールされた更新プログラムを表示] をクリックしま す。



⑤ [インストールされた更新プログラム] 画面が表示されますので、一覧から "Windows Virtual PC (KB958559)"を選択して [アンインストール] をクリックします。

コントロール パネル ホーム	更新プログラムのアンインストール		
プログラムのアンインストー ル	更新プログラムをアンインストールするには、一覧からプログラムを選択して [アンインストール] または [変更] をクリックします。		
Windows の機能の有効化また は無効化	整理 ▼ アンインストール		= - @
	名前	プログラム	バージョン
	Microsoft Windows (2)		
	Windows Virtual PC (KB958559)	Microsoft Windows	
	Microsoft Windows (KE976502)の更新プログラム	Microsoft Windows	
	< [		

⑥ **[更新プログラムのアンインストール] 画面**が表示されますので、**[はい] ボタン**をクリックします。

モ利ノロクノムのアノイン	
▲ コンピューター	からこの更新プログラムをアンインストールしますか?

⑦ アンインストール完了後、再起動を促す画面が表示されますので、[今すぐ再起動する]ボタンをクリックして再起動してください。

Microsoft Windows	X
これらの変更を適用するにはコンと 要があります。	ピューターを再起動する必
再起動する前に、開かれているファ プログラムをすべて閉じる必要がる	ァイルをすべて保存して、 あります。
今すぐ再起動する(R)	後で再起動する( <u>L</u> )

以上で、Windows Virtual PCのアンインストールは完了です。

## — 留意事項 —

再びWindows XP Modeを使用する場合は、付録Aの「(2) Windows XP Modeのインストール」か ら「(5) Windows XP Modeのセットアップ」を実施してください。このとき、Windows XP Mode のセットアップにおいて以下のダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、 [新規作成] ボタンをクリックしてください。セットアップ処理が継続します。

Windows XP Mode を開始できません
 1 つ以上の必要なファイルが見つからないか、無効で す。
新しい Windows XP 環境を作成しますか?
<u>このエラーの詳細</u>

付録B 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順(Windows Server® 2008 R2の場合のみ)

# 付録B 仮想環境を構築する場合のセットアップ手順 (Windows Server® 2008 R2の場合のみ)

Windows Server® 2008 R2にはゲストOS用のライセンスが1つ付属しており、本製品では、ゲストOSとして Windows Server® 2008 R2をインストールした仮想環境を提供しています。

ここでは、仮想環境を構築する場合のセットアップ手順について説明します。このセットアップ手順は、 以下の留意事項をよく読み、仮想環境を構築する場合にだけ実施してください。

#### – 留意事項 –

仮想マシンにインストールされているゲストOS(Windows Server® 2008 R2 Standard)を使用する場合、ライセンス認証手続きをする必要があります。ライセンス認証を行わなかった場合はゲストOSを 起動することができなくなります。なお、このライセンス認証の方法とマイクロソフトのプライバシー ポリシーの詳細については、仮想環境の最初の起動時に表示されます。

<仮想環境を構築しない場合>

仮想環境のセットアップに使用するファイルは、ゲストOS用の仮想ハードディスクファイルを含んでいるため、約3GBのディスク容量を占有します。そのため、仮想環境を構築しない場合は、以下の手順に従い格納ディレクトリを削除することをお勧めします。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② コマンドプロンプトを起動します。
  - ・ [スタート] ボタンをクリックし、 [すべてのプログラム] をポイントします。
  - [**アクセサリ**] をクリックします。
  - ・ [コマンドプロンプト] を右クリックし、表示されるメニューから [管理者として実行] をク リックします。

(ログオンした管理者アカウントがビルトインAdministratorアカウントである場合は、[コマン ドプロンプト]をクリックします。)

- ・ [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] ボタンをクリックします。
- ③ [コマンドプロンプト] 画面で以下を入力して [Enter] キーを押します。

rmdir /s C:¥HITACHI¥Hyper-V\_Image

(1) セットアップ手順の概要

以下に、プレインストールされた仮想マシン(ゲストOS: Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard)のセットアップ手順を示します。

以下に設定の概略フローを示します。



(2) 仮想環境のインストール以下の手順で仮想環境をインストールしてください。

#### - 留意事項 -

"C:¥Virtual Machine¥WS08R2"以下に仮想環境をインストールします。

既にHyper-V™で"C:¥Virtual Machine¥WS08R2"以下のファイルを仮想マシンとして構築し使用している場合、本インストール作業により上書きしますので、必要に応じてバックアップを取得してください。

- コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者アカウントでログオンします。
- ② セットアッププログラムを起動します。
  - ・ [スタート] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
  - ・名前のボックスに以下を入力して [OK] ボタンをクリックします。

C:¥HITACHI¥Hyper-V\_Image¥Install.bat

📨 ファイル	名を指定して実行
	実行するプログラム名、または開くフォルダーやドキュメ ント名、インターネット リソース名を入力してください。
名前( <u>O</u> )	: C:¥HITACHI¥Hyper-V_Image¥Install.bat
	🚱 このタスクは管理者特権で作成されます。
	OK キャンセル 参照( <u>B</u> )

- ③ インストール確認のダイアログボックスが表示されますので、 [OK] ボタンをクリックしま す。
- ④ インストールが完了すると、完了したことを示すメッセージを表示しますので、何かキーを押してください。ウィンドウが閉じ、インストールは完了です。

(3) Hyper-V<sup>TM</sup>のインストール

以下の手順でHyper-V™をインストールしてください。

- [スタート]ボタンをクリックし、[管理ツール] [サーバーマネージャー]をクリックし ます。
- ② 「役割」をクリックし、表示された画面内の「役割の追加」をクリックします。



③ 「役割の追加ウィザード」の「開始する前に」画面が表示されますので、 [次へ] ボタンをク リックします。



④ 「サーバーの役割の選択」画面が表示されますので、「Hyper-V」のチェックボックスをオン にして [次へ] ボタンをクリックします。

役割の追加ウィザード		×
サーバーの役割のみ	選択	
<b>1965年3年に</b> サーデーの原 <u>利</u> Hyper-V 仮想ネットワーク 確認 通行状況 結果	COサーバー(インストールすき)(名称 1 つ火上は強快にます。 (発展))           Active Directory Fights Management サーゼス Active Directory Fights Management サーゼス Active Directory ブロットフェン サービス Active Directory ブロットリーン(シーレン) Directory ブロットン(シーレン) Directory ブロットン(シーレン) Directory ブロットン(シーレン) Directory ブロットン(シーレン) Directory ブロットン(シーレン) Directory (Table Services Windows Server Luddle Services Windows Server Luddle Services Windows Server Luddle Services Directory プリットン(シーレン) Directory プリットン(シーレン) Directory プリットン(シーレン) Directory プリットン(シーレン) Directory プリットン(シーレン) Directory プリットン(シーレン) Directory The Directory The Directory Directory The Directory The Directory Direct	1959 Hange V. (二度増サンジスをのソーネー の時間になります。 の時間になります。 の時間になります。 2015年19月1日 2015年19月11日 2015年19月11日 2015年19月11日 2015年19月11日 2015年19月11日 2015年19月11日 2015年1
	<前へ(E) 次へ(	N)> インストール() キャンセル

⑤ 「Hyper-V」 画面が表示されますので、 [次へ] ボタンをクリックします。



⑥ 「仮想ネットワークの作成」画面が表示されますので、仮想マシンが他のコンピュータと通信 する場合は仮想ネットワーク用に使用するネットワークアダプターのチェックボックスをオン にして[次へ]ボタンをクリックします。

役割の追加ウィザード		×
<b>振行 仮想ネットワークのf</b>	乍成	
開始:する前に サーバーの役割 Hyper-V 仮想ネットワーク 確認2	仮想マシンが他のフレインーシーン通信するには、仮想ネックワークが必要です。この役割をインストールすると、仮想 マンンを作気して、それらを仮想ネックランス接続できなよてよびます。 遅れするネックトークアダウーことに、コック原題ネットワークが非たなにます。仮想マシンで使用する原題ネットワ ークするのは個でないたと「コケ系の」であたことをお勧めします。仮想ネットワークス、後で仮想ネットワークマネー ッチーを使用していた。料象、および実更できます。 ネットワーク アダフター(E)	
進行状況 結果	名前 ネットワーク アダプター □ ローカル エリア接続 Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection	I
	① このサーバーへのリモートアウセス用にネットワークアダプターを1つ端係しておくことおお助めします。ネットワーク アダプターを確保するには、そのネットワークアダプターを仮想ネットワーク用としては違択しないようにします。	
	仮想ネットワークの詳細	
	<前へ(2) 法へ(2) オシストール(3) キャンセル	

⑦ 「インストールオプションの確認」画面が表示されますので、[インストール]ボタンを クリックします。(インストール処理が開始します)

役割の追加ウィザード		x
1>2F-16	オブションの確認	
開始する前に サーバーの役割 Hyper-V	はの役割に役割サービス、または機能をインストールするには、「インストール」をグリックしてください。 ① )次の1 件や信頼用シャピージ	
使題な+2-0-2 制設 調得状況 総単	<ul> <li>④ インストールの使了 (MC, このサーバーの再起動が)と聞になる場合が使ります。 Hyper-V</li> </ul>	
	この情報時代期、電子メールで連续、または保存	
	ADC+++	_

⑧ 「インストールの結果」画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックします。

校計の追加ウィザード 「「「「」 インストールの	结果	×
間話する前に サーバーの役割 Hyper-V	次の投碁、投割サービス、または掲載の単築も売了する 金 次の1件の警告メッセージ	<ol> <li>(1) 再記動が必要です</li> <li>(1) 再記動が必要です</li> </ol>
M25 補約 補約	▲ インストール処理を完了するには、このサーバー4	両記念がすると意かかります。
	12.2.1-3.1.4.★-1649時、妻子メール活動、妻なは第 (本市へだ)	88 )

⑨ 再起動を促すメッセージが表示されますので、[はい]ボタンをクリックして再起動してください。(インストールが完了するまで再起動を数回繰り返します。)

役割の追加ウィザード
() 今すぐ再起動しますか?
インストール処理を完了するには、このサーバーを再起動する必 要があります。他の役割、役割サービス、または機能は、サーバ 一を再起動するまで追加または削除できません。

① 再起動後、「インストールの結果」画面が表示されますので、[閉じる]ボタンをクリックします。

は成の両間ウィザード 「「」」 インストールの結	P.
構成の時間 場合れた 動動	★ 次の役割、役割サービス、または稀能が正常にインストールされました え、次の「件の警告メッセージ、」件の情報はメッセージ
	<ul> <li>これたいすなになったり、日本のすがらみつの「Weakows Usakan」を発展していたなた。</li> <li>Hyper-V ③ インストールが正常に定てしました</li> <li>() 仮想マシンを追加するには、仮想化管理コンソールの反想マシンの新規(1987)+ガードを使用します。</li> </ul>
	122216 上水102年期,電子水16建位。また182日
	<87402 384000 #45406 #45406

インストール完了後、 [サーバーマネージャー] に [Hyper-V マネージャー] が追加されます。

14サーバー マネージャー		
ファイル( <u>F)</u> 操作( <u>A</u> )表示( <u>V</u> ) へ)	17(H)	
⇐ ➡ 100 100		
■ サーバー マネージャー (WIN-N15C4 □ ■ 20年1	サーバー マネージャー (WIN-N15CANFERN8)	
□ ■ 1X音 Hyper-V ■ Hyper-Vマネージャー ■ 機能 ■ 参数折	このサーバーの状態の概要の取得、最上位の行 を行います。	管理タスクの実行、サーバーの役割や機能の追加または利服
<ul> <li>Ⅲ 構成</li> <li>Ⅲ 標記憶域</li> </ul>	◇ サーバーの概要	▶ サーバーの概要ヘルプ
	○ コンピューター情報	💦 Windows のライセンス認証
	フルコンピューター WIN-N15CANFERN8	👰 システム プロパティの変更
	名:	ペットワーク接続の表示     ペール     ペール     マール     マール
	ワークグループ: WORKGROUP	5■ リモート テスクトゥフの構成 ヨ、サーバー マネージャーのリモート管理
	リモート デスクトップ: 無効	画の構成
	サーバー マネージャ 無効 一のリモート管理:	
	プロダクト ID: ライセンス認証されていません	υ
	□ ログオン時にこのコンソールを表示しない(D)	
	◎ セキュリティ情報	🍘 Windows ファイアウォールの表示
	Windows ファイアウ パブリック: 有効	🖉 更新プログラムの構成
	オール:	◆ 新しい役割の確認 ・
	▲ #84762年#1日・ラロ 10:00 定初間時の設定	

22 [サーバーマネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

(4) 仮想マシンのインポート以下の手順で仮想マシンをインポートしてください。

#### 留意事項

既に構築していた仮想環境を破棄して新たに仮想環境を構築する場合、Hyper-Vマネージャーから インポート済みの仮想マシンを削除してから仮想マシンをインポートしてください。 仮想マシンの削除時、仮想ハードディスクファイルも必ず削除してください。仮想ハードディスク ファイルはデフォルトでは以下のファイルです。

"C:¥Users¥Public¥Documents¥Hyper-V¥Virtual Hard Disks¥HITACHI\_VM\_WS08R2.vhd"

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] [Hyper-V マネージャー] をクリック します。
- ② 「操作」の「仮想マシンのインポート」をクリックします。



- ③ 「仮想マシンのインポート」ダイアログボックスが表示されますので、「場所」および「設定」を以下の設定に変更して[インポート]ボタンをクリックします。
  - 場所: "C:¥Virtual Machine¥WS08R2¥"
  - 設定:「仮想マシンをコピーする(新しい一意なIDを作成する)」ラジオボタンを選択する。 「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」の チェックボックスをオンにする。



#### — 留意事項 -

「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度インポートできるようにする」のチェック ボックスをオンにしないで仮想マシンのインポートを行った場合、「場所」で指定したフォルダー 以下のファイルが直接使用されます。

"C:¥Virtual Machine¥WS08R2"以下のファイルをバックアップしていない場合、仮想マシンを初期 状態に戻すことが出来なくなりますので、「すべてのファイルを複製し、同じ仮想マシンを再度イ ンポートできるようにする」のチェックボックスをオンに設定してインポートすることを推奨しま す。

 ④ インポート終了後、 [Hyper-V マネージャー] に仮想マシン "HITACHI\_VM\_WS08R2" が追 加されます。

Ĭ≝Hyper−V マネージャー		
■ ファイル(E) 操作(A) 表示(V)	ウィンドウ(型) ヘルプ(日)	_8×
Hyper-V マネージャー	仮想マシン(1)	操作
	名前 ^   状態   CPU 使用率   メモリ	WIN-N15CANFERN8
	INTACH_WEWSWARZ 3/7	新規 ▶
		仮想マシンのインボート     「     の想マシンのインボート     」     ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		Myper-Vの設定
		仮想ネットワークマネー
		💋 ディスクの編集
		日本 ディスクの検査
		● サービスの停止
	違択した仮想マシンにはスナップショットがありません。	★ サーバーの削り除
		● 最新の情報に更新
		表示 ▶
		ここから新しいウィンドウ
		▲ 117
		HITACHI_VM_WS08R2 🔺
	HITACHI_VM_W508K2	🚽 接続
	作成済み: 2010/11/19 14:19:16	12 設定
	<b>メモ</b> : なし	◎ 起動
		占 スナップショット
		🎝 エクスポート 💌

# 

インポートした仮想マシンの設定はすべてデフォルトの設定になっています。そのため、ご使用に なる環境に応じて仮想マシンの設定を変更してください。

⑤ [Hyper-Vマネージャー] 画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

(5) ゲスト**OS**のセットアップの準備

下記の項目は、ゲストOSのセットアップ作業中に必要となる項目です。セットアップ作業を開始 する前にあらかじめ決めて(確認して)おいてください。

項目	内容
ライセンス証書	HF-W本体にライセンス証書が貼り付いていることを確認してください。 ライセンス証書に記載の"Virtual Key"が示すプロダクトキーを確認して ください。
Administratorのパスワード	Administratorのパスワード 設定後に変更できます。

## 

Administratorのパスワードを設定する際、以下の条件を満たす必要があります。

・6文字以上であること。

・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。

・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用しないこと。
(6) ゲスト**OS**のセットアップ

Microsoft<sup>®</sup> Windows Server<sup>®</sup> 2008 R2 Standardをセットアップします。

以下の手順で仮想マシンを起動、および基本環境を設定してください。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、[管理ツール] [Hyper-V マネージャー] をクリック します。
- ② 仮想マシン "HITACHI\_VM\_WS08R2"を右クリックし、表示されたメニューから [接続] ボ タンをクリックします。
- ③ 仮想マシン接続画面が表示されますので、[操作]メニューの[開始]をクリックします。
   Windows Server® 2008 R2 Standardのセットアップが自動で開始されます。



④ プロダクトキー入力画面が表示されますので、ライセンス証書記載のプロダクトキーを入力して
 [次へ] ボタンをクリックします。



⑤ ライセンス契約画面が表示されますので、契約内容をよく読んでから「ライセンス条項に同意 します」チェックボックスをオンにして、[開始]ボタンをクリックします。

	-
Windows @kol-797	
( 3 million (6.01.12)	
ライセンス最増を参説みになってください	
マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 当	
MICROSOFT WINDOWS SERVER 2008 R2 STANDARD	
本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス系項 (以下「本ライセンス条項」といいます) は、お客様 と以下の当事者との契約を構成します。	
<ul> <li>ソフトウェア (以下「ホソフトウェア」といいます)をワーバーと共に頒布するワーバー製造業 者 (以下「融造業者」といいます)、または</li> </ul>	
<ul> <li>ホンフトウェアをワーバーと共に頒布するンフトウェア インストール業者(以下「インストール 業者)といいます)</li> </ul>	
以下のライセンス条項を注意してお読みください。ホライセンス条項は、上記のソフトウェアあよ びシフトウェアが記録されたメディア(以下総称して「ホンフトウェア」といいます)に進用されま	
「う/b>/x身端に周囲します(j)	
RHQ)	
	🔹 🔍 A 般 🖬 🗭 🕄 🖾

 ⑥ Administratorのパスワード変更を要求する画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリック します。



- ⑦ パスワードの入力画面が表示されますので、[新しいパスワード]および [パスワードの確認
   入力]にパスワードを入力して [Enter] キーを押下するか [→] をクリックします。
   なお、設定するパスワードは以下の条件を満たす必要があります。
  - ・6文字以上であること。
  - ・半角英文字の大文字および小文字、数字、記号の4種類から3種類以上を使用すること。
  - ・ユーザーアカウント名やユーザー名として使用されている文字列の一部を使用しないこと。



⑧ パスワード変更完了画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。 その後、自動的にログオンします。



9 ログオン後、初期構成タスク画面が表示されますので、画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了し、次ページ以降のセットアップを続行します。
 次回起動時にこの画面を表示しない場合は、「ログオン時にこのウィンドウを表示しない」
 チェックボックスをオンにして、画面右上の [×] ボタンをクリックして画面を終了します。

(7) Windowsのライセンス認証

仮想マシンにインストールされているゲストOS(Windows Server® 2008 R2 Standard)にはプロダ クトアクティベーションと呼ばれる不正コピー防止技術が実装されており、ユーザーはWindows Server® 2008 R2 Standardを使用するにあたりマイクロソフト社に対してライセンス認証手続きをす る必要があります。ライセンス認証は電話で行う方法とインターネット経由で行う方法があります ので、以下に示すいずれかの方法で実施してください。

- (a) 電話にてライセンス認証する場合
  - コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者ア カウントでログオンします。
  - ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
  - ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、 [システム] をクリックします。
  - ④ 「Windows ライセンス認証」の「<u>自動ライセンス認証が始まるまで3日です。</u>今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします。
     (不約4100以内以下、1000以内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000u内u和、1000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh和、10000uh

(下線部の内容はライセンスの状態により変わります)



⑤ 「**ライセンス認証の手続きを行うその他の方法を表示します」**をクリックします。

🌂 Windows のライセンス認証	×
🕞 🕅 Windows のライセンス認証	
Windows のライセンス認証の手続きを今すぐ行ってください	
Windows のすべての機能を引き続き使用するには、Windows のライセンス認証の手続きを 30 日以内に行う必要が あります。	
→ Windows のライセンス認証の手続きを今すぐオンラインで行います(A)	
→ 後で確認します(L)	
→ ライセンス認証の手続きを行うその他の方法を表示します(S)	
ライセンス認証の詳細を表示します プライバシーに聞する声明をオンラインで表示します	
キャンセル	

⑥ 「自動電話システムを使用します」をクリックします。

Vii	ndows のライセンス認証	
)	№ Windows のライセンス認証	
	Windows のライセンス認証の手続きを行う方法を選択してください。	
	→ モデムを使用してライセンス認証サービスに直接接続します(M) (モデムがある場合は推奨)	
	→ 自動電話システムを使用します(A)	
	<u> </u>	
	ライセンス認証の詳細を表示します	
	++>/t	Я

 ⑦ 最も近い場所をクリックしてくださいと表示されているプルダウンメニューより「日本」を 選択して、[次へ]ボタンをクリックします。

隆 Windows のライセンス認証	×
🬀 🎋 Windows のライセンス認証	
ライセンス認証の手続きを行うための電話番号を検索してください	
最も近い場所をクリックしてください( <u>C</u> ):	
	次へ(N) キャンセル

⑧ ステップ1にライセンス認証専用窓口の電話番号が表示されますので、いずれかの電話番号 に電話を掛けます。

(無料電話番号 (有料電話番号) (SMS) ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:	(無料電話番号) (有料電話番号) (SMS)
(有料電話番・ (SMS) ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:	(有科電話番号) (SMS)
(SMS) ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:	(SM5)
ステップ 2: 電話システムの指示に従って、インストール ID を入力します:	, , , , ,
	, , ,
1 2 3 4 5 6 7 8	o 9
ステップ 3: 電話システムによって指定された確認 ID を入力します( <u>3</u> ):	
A B C D E F G	G H

⑨ 音声の案内に従い、ステップ2に記載されているインストールIDをプッシュで入力します。
 認証手続き完了後、確認IDが応答されますので本IDをメモします。

🎙 Windows ØƏ	イセンス認証						x
G 💦 Window	ws のライセンス	21					
Windows (	のライセンス認証	[の手続きを今す	や行ってくださ	<b></b> 0			
ス <del>テ</del> ップ 1:	確認 ID を入手	するには、次の電	活番号に電話し	)ます:			
						(無料電話	番号)
						(有料電話	番号)
						(SMS)	
ステップ 2:	電話システムの推	行に従って、イン	ストール ID を	入力します:			
1	2	3 4	5	6	7	8	9
ステップ 3:	電話システムによ	って指定された確	ᇏᇟᇶᆀ	,±d(3):			
Α	В	С	D	Е	F	G	н
						ンかへ(N)	キャンヤル

⑩ 上記⑨で受け取った確認IDを入力して、 [次へ] ボタンをクリックします。

🎙 Windows のライセンス認証				×
G 🌾 Windows のライセンス認証				
Windows のライセンス認証の手術	売きを今すぐ行ってください			
ステップ 1: 確認 ID を入手するには	は、次の電話番号に電話します	r:		
			(無料電話番	号)
			(有料電話番	亏)
			(SMS)	
ステップ 2: 電話システムの指示に従	Éって、インストール ID を入力	します:		
1 2 3	4 5	6	7 8	9
ステップ 3: 電話システムによって指定	定された確認 ID を入力します	r( <u>3</u> ):		
A B C		F	G	н
			次へ( <u>N</u> )	キャンセル

ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックして画面を終了してください。

🎋 Windows のライセンス認証	×
🕞 💫 Windows のライセンス認証	
ライセンス認証に成功しました	
ライセンス認証は、お使いの Windows が正規品であることを検証するのに役立ち ます。正規の Windows Server 2008 R2 では、利用可能なすべての更新プロ グラムおよび割品サポートを Microsoft から受け取ることができます。 Software	
オンラインで正規の Windows の利点の詳細を表示	
	52

これで電話によるライセンス認証は完了です。

- (b) インターネット経由でライセンス認証する場合
  - コンピュータの管理者アカウントでログオンしていない場合には、コンピュータの管理者ア カウントでログオンします。
  - ② [スタート] ボタンをクリックし、 [コントロールパネル] をクリックします。
  - ③ [システムとセキュリティ] をクリックし、 [システム] をクリックします。
  - ④ 「Windows ライセンス認証」の「自動ライセンス認証が始まるまで3日です。今すぐ行う場合はここをクリックしてください」をクリックします。
     (下線部の内容はライセンスの状態により変わります)



⑤ 「Windowsのライセンス認証の手続きを今すぐオンラインで行います」をクリックします。



⑥ プロダクトキーの検証をしていますの画面が表示され、ライセンスの認証が実行されます。

🎋 Windows のライセンス認証		×
🕝 🛝 Windows のライセンス認	∃ <b>E</b>	
Windows のライセンス認証の	手続きを行っています	
プロダクトキーを検証しています。		
これには数分かかることがあります		
		44701

⑦ ライセンス認証に成功しましたの画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックして画面を終了してください。

🎙 Windows のライセンス認証	×
🕞 🕅 Windows のライセンス認証	
ライセンス認証に成功しました	
ライセンス認証は、お使いの Windows が正規品であることを検証するのに役立ち	
ます。正規の Windows Server 2008 R2 では、利用可能なすべての更新プロ グラムおよび型品サポートを Microsoft から受け取ることができます。	
Microsoft*	
オンラインで正規の Windows の利占の詳細を表示	
際	ାଧ୍ୟ

これでインターネット経由によるライセンス認証は完了です。

このページは白紙です。